

新潟県
佐渡市

歴史と文化が薫り
人と自然が共生できる
持続可能な島



人口 51,492人 面積 855.68 km²

都市の特長

新潟港から1時間程度でアクセスできる、新潟県の離島。2008年に野生復帰したトキと古くから採掘が進められた金山が有名。金山は、2022年に国内候補として世界文化遺産に推薦され、2024年の登録を目指している。

佐渡市

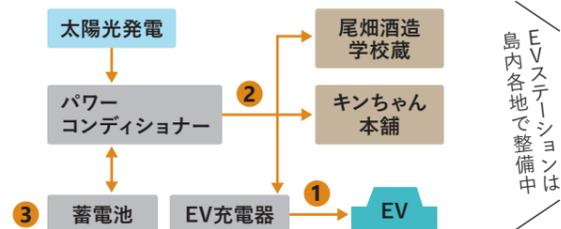
SADO CITY

「エネルギー×
防災×観光」の
モデルづくり

産官学の多様な主体が活動する西三川エリアは、EVの充電スポット空白地帯であり、大雪に伴う倒竹による停電や集落孤立のリスクを抱えている。環境・社会・経済の三側面の課題解決に向け、産学官の連携により、太陽光発電によるEV充電設備の整備や未整備の竹林の竹の活用、EVの充電時間を活用した観光促進を行い、エネルギー×防災×観光のモデルづくりを目指す。

01 太陽光発電を活用したEV充電と、災害時における蓄電池による電力供給スポット整備

旧真野多目的広場に太陽光発電とEV充電設備を設置する。太陽光発電の電力は①EVの充電、②周辺施設への給電、③災害時における蓄電池からの電力供給の3つの活用を行う。将来的には民間主導での整備を目指している。



EVステーションは
島内各地で整備中



02 竹の新たな活用に向けた竹チップ舗装

令和4年12月の大雪で、倒竹による市道除雪の支障や停電が発生した。竹を資源として活用する機会が減り、未整備の竹林が増えたことが倒竹の一因であるため、竹の新たな活用として竹チップ舗装を推進する。竹チップ舗装は、クッション性や耐久性に優れ、吸熱効果もあり高機能。EV充電スポットが設置される旧真野多目的広場に舗装する予定である。

竹の新たな活用として
竹チップ舗装を推進



03 EVの充電時間を活用した観光促進

EVの充電時間を活用した観光促進を行う。EV充電設備周辺には、佐渡産の米粉クッキーやリンゴジュースが楽しめる店舗や、廃校を活用した建物で日本酒製造体験やカフェが楽しめる酒蔵がある。さらに、電動コミューターでの周遊など、EV充電の待ち時間を観光促進につなげることを目指している。

EV充電の待ち時間に
食事・買物・観光



各取組の
詳細はこちら

佐渡市のSDGs
に関する取組



佐渡島
自然共生ラボ



インタビュー

Interview

「エネルギー×防災×観光」のモデル構築



佐渡市 企画部 総合政策課
SDGs推進主幹 丸山 祐一さん

民間事業者と協力し、持続可能な地域づくりのモデルになるように取組を進めています。竹チップ舗装については、佐渡島自然共生ラボ(官民連携共創プラットフォーム)で構想し、EVステーション整備については、再エネによるEV充電と停電時の電力供給スポットとして環境と防災の両立を目指します。今回のモデル事業を通じ、住みよい環境を確保しながら循環型の持続可能なまちづくりにチャレンジしていきます。

島内では至る所で
海が見えます



Column 取組連携事業者紹介
キンちゃん本舗

原材料の生産から製造までを佐渡島の自社で完結し、米粉やりんごジュースの生産・販売をしている。また、りんご残渣やもみ殻等からの有機肥料の製造や、貯蔵した雨水の農作物栽培での活用など、循環型農業生産に取り組み、地域活性化に貢献している。本取組では、竹チップの使用による照り返し熱の低減や災害時でのクリーンエネルギー無償提供などを通じ、地域のあるべき姿を追求していく。

Column 取組連携事業者紹介
尾畑酒造株式会社

1892年創業の造り酒屋。西三川エリアにおいては、2014年から廃校を改装した第2の醸造所「学校蔵」を開設し、1週間の酒造り体験や交流事業を実施している。「学校蔵」の開設時より島との共生を掲げて、地域の米、地域エネルギーの活用を進めている。2019年時点では施設全体の約58%を再エネで賄っていたが、近い将来にゼロカーボン化を達成し、域外収支の改善に貢献することで島の活性化を目指す。

今後の展望

「エネルギー×防災×観光」のモデルづくりの取組は、今後整備を進めていく。この取組の成果や課題を踏まえ、他の場所にも同様の取組を展開する予定である。最終的には、民間事業者による自走化を目指している。さらに、金山の世界遺産登録に向けて、観光客に環境保全への協力を求める手法なども検討中である。



- 1 自然界には約500羽いるトキ
- 2 夕暮れの日本海
- 3 夫婦岩の日没
- 4 金銀採取に使われた北沢浮遊選鉱場跡
- 5 江戸時代の掘削の跡 道遊の割戸
- 6 佐渡産の魚の寿司